

目に見える支援を！～南三陸町の保育園再開のために～

全国保育問題研究協議会常任委員会

4月17日の拡大常任委員会において、保問研として東日本大震災への支援を行うことを決定しました。その際、私たちの支援が被災地と直接結びつくような目に見える支援を行いたいという提起がなされました。模索していたところ、仙台保問研のメンバーの佐藤真穂さんが南三陸町に住んでいることがわかり、佐藤さんの仲立ちで南三陸町の主任保育士の三浦房江さんとお話しすることができました。

南三陸町は、報道でも取り上げられているように、もっとも被災の大きい町の一つであり、津波によって町の80%が流された所です。町には、認可保育園が5カ所ありますが、2カ所は流されてしまいました。1カ所は山村部にあり避難所として使われており、残り2カ所のうち1カ所は亀裂が入っていて修理が必要、もう1カ所は瓦礫が詰まっています。洗浄消毒が必要です。南三陸町の住民は、多くの方が避難所生活を行ったり、身寄りを頼って町外に避難しています。南三陸町の保育士さんたちは、現在、避難所の人たちのお世話に追われている状況です。

町で一番大きい志津川保育所の保育士・三浦さんのお話によると、津波が襲ってきたとき、子どもたちと道のない山を何とか登って避難できたものの、その夜は、山でそのまま過ごし、3日後に、保護者に引き渡すことができた子どももいたそうです。子どもたちは、保護者にまわりつくようになり、余震で揺れるときに泣きわめく子どももいるということで、心のケアが必要になっているそうです。

一刻も早く保育園を再開したいと願い、安否確認とともに、保育園へのニーズがどの程度あるか検討しているそうです。本来であれば、5園全体で260名程度の子どもたちが通う予定でしたが、再開すれば、100名程度の子どもが通うようになるのではないかとお話ししていました。再開するにしても、何も無いところから出発するので、保育用品であれば、何でも送ってほしいということです。

そこで、私たちとしては、全国各地から保育用品を送って、被災地の保育士さんたちを励ましたいと思います。物資の仕分け作業というような被災地の労を増やすことの無いように一箱には同じ物資を入れて送りたいと思います。

支援物資の送り先は、以下の通りです。

宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山11-1 Tel 0226-46-3679

志津川保育所